



FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

No.61

Jan.20, 2016

# 藤

藤女子大学  
広報



藤学園 創立 90 周年記念式典

遠藤 郁子氏による  
記念ピアノコンサート

## CONTENTS

- 藤学園創立90周年記念式典／2
- 札幌市との連携／4
- 麻生商店街との連携／6
- 新コーナー 私のカレッジライフ／7
- 素顔の先生／11 ●藤のルーツ／12

# 藤学園 創立90周年記念式典

藤学園創立90周年記念式典を終えて 理事長 Sr.永田 淑子



1925年4月に開校した札幌藤高等女学校に始まる藤学園は、2015年に創立90周年を迎え、9月28日に記念式典を挙行了しました。駐日ローマ法王庁大使のジョゼフ・チェノットゥ大司教様をはじめ、カトリック札幌教区長の勝谷太治司教様、設立母体である私どもの修道会の日本管区長シスター・マリア・テレジタ、日本カトリック大学連盟会長の早下上智大学長、日本私立大学協会北海道支部長の森本北海学園理事長など、多くの御来賓をお迎えしました。会場の関係で卒業年度を限ってお招きした卒業生たちも大勢ご参加くださり、母校の感謝と喜びを共にしてくださいました。

何よりのお客様は、シスター・クサヴェラ・レーメの又甥（甥の息子）であるヘルマン・レーメ様ご夫妻が、ドイツからお越しくださったことでした。シスター・クサヴェラは1920年来日以来、一度だけ1960年に会議のためにドイツに帰国したことがありますが、その時に実家を訪れたシスター・クサヴェラと14歳の少年であったヘルマン・レーメさんは初めてで最後の対面をなさいました。この度、札幌や旭川でクサヴェラ先生の創設された学校をご覧になり、卒業生たちにもお会いになって、シスター・クサヴェラのお働きがどのようなものであったかをよく実感され、深い感銘を受けられたようです。

シスター・クサヴェラは、3人のシスターと共に1914年に日本へ向かいました。スエズ運河で第一次世界大戦勃発という

事態に直面し、ドイツ船はその先の航行が不可能になり、6週間スエズに留め置かれ、日本への渡航の道が断たれたため、やむなくドイツへ帰国しました。戦争は同盟関係にある国々が次々に参戦して4年間も続き、爆撃機や毒ガス弾などを使用した人類がかつて経験したことのないような悲惨な戦争となりました。女性も軍需工場などでの作業に駆り出され、シスター・クサヴェラは看護師の勉強をして資格を取りました。

戦争はやっと終わりましたが、敗戦国ドイツは巨額の賠償金を要求され、賠償金を払うために高額紙幣をどんどん印刷したため、ハイパー・インフレーションになってドイツ・マルクは価値を失いました。1920年になってやっと日本に来ることができたシスターたち3人は、マルクの暴落のために生活にも困るほどで、キノルド司教様がたびたび訪れてくださり、食べ物などの心配もしてくださいました。学校建設資金の目途が立ちませんので、ドイツの本部からはドイツに戻るか、またはアメリカに行って仕事をするように、という指示が来ました。日本での学校創設という任務を諦めるよう求められたのです。これはシスターたちにとってどうしても受け入れることができないことで、学校を創るという使命を何とかして果たしたいと願いました。

キノルド司教様は、日本での宣教師生活を健康上の理由でやめてドイツに戻っていたドロテオ神父様を、アメリカに寄付集めに派遣していただくようドイツのフランシスコ会フルダ管区に要請し、聞き入れられてドロテオ神父様がアメリカに赴きました。この神父様が送ってくださったアメリカの方々の住所に、シスターたちは日本から寄付依頼の手紙を3,000通以上タイプして送ったそうです。アメリカにはこのような寄付金集めの人々が大量やって来たため、2年以上続けることが許されませんでした。2年間で必要なお金が集まり、学校開設資金の目途が立ちましたので、開設の具体的な準備を始めました。

1924年に2人のシスターが東京のカトリック系女学校を視察に出かけ、2か月間の視察を通して日本の学校に関して、管理運営や施設・設備など必要なことを学びました。その時、東京は前年の関東大震災の傷跡がまだ生々しく残っていました。1924年春に札幌に来られたマックス・ヒンデルという



カトリック札幌教区長  
勝谷 太治司教様



殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会  
日本管区長  
Sr.マリア・テレジア・ゴールドベック様



藤女子中学・高等学校長  
菅原 徹



学長  
喜田 勲



ヘルマン・レーメ様  
ご夫妻

スイス人の建築士に校舎の設計を依頼し、キノルド司教様が細かく指導して下さって校舎建築がはじまり、同年9月28日に上棟式が行われました。この日は、ヴェンセスラウス・キノルド司教様の保護聖人聖ヴェンセスラウスの祝日でした。それ以来、この日を開校記念日としています。

1924年12月24日に文部省から、北海道初の5年制の札幌藤高等女学校の設立認可が来ました。1925年3月に行われた最初の入学試験のために、志願者が十分来るかどうか心配でしたが、150人定員のところに317名の受験者がいました。入学試験が終わって間もなく、校長のシスター・ジャン・ベルヒマンスが盲腸炎をこじらせて腹膜炎になり、天使病院に入院しました。手術の後も退院できなく、4月の入学式に出ることもできず、そのまま5月に帰天されました。これは開設したばかりの学校にとって非常に大きな痛手であり、校長にとってはやっと手にする労苦の爽りを手放すことでした。しかし、校長はその犠牲を「日本の子供たちのために喜んで捧げます」と、帰天の前日に語られました。

代わりに校長となったシスター・クサヴェーラは、芽を出したばかりの学校の土台づくりに力を尽くしました。ドイツの教育方法を取り入れながら、日本の女性の教育、しかも5年制で男子の中学校と同等レベルの教育を行いました。その結果、毎年受験生が増えて、すぐに札幌で一番受験生の多い女学校になりました。

90周年記念式典において、チェノットゥ大使が祝辞の中で述べられたお言葉を引用させていただきます。

「私はとりわけ、藤学園が女性の全人格的な教育に力を入れておられる点に目を留めたいと思います。インドのマハトマ・ガンジーはよく言っていました。『男子を教育するなら、それは単なる個人的教育に終わる。しかし、女性を教育するなら、それは、国全体を教育することになる』と。私はここにおられる学生の皆さんお一人お一人が、人々への奉仕の精神と人類に向かって開かれた、ユニバーサルな愛の精神をはぐくんでくださるようお願い、また、お祈りしています。」

幾多の困難や試練を乗り越えてきた90年。皆様、ありがとうございます。

## 藤学園創立90周年記念 教皇大使ジョゼフ・チェノットゥ大司教様のお祝辞



司教様、理事長シスター、先生方、ご父兄、卒業生、ご来賓、そして愛する生徒の皆様、藤学園創立90周年記念の祝賀に、皆様と一緒にできることを大変うれしく、また、光栄に感じております。長年にわたり、多くの学生たちに知識と知恵を与えてきたこの学園の、素晴らしい精神について、改めて振り返る絶好の

機会だと思います。また、藤学園をここまで導いてくださった神様と、先駆者たちに感謝を捧げる時でもあります。カトリック札幌教区のヴェンセスラウス・キノルド司教は、「北海道の発展のためには女子教育が最も重要である」と考え、学校設立のためにドイツより「殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会」のシスターたちを招きました。私はとりわけ、藤学園が女性の全人格的な教育に力を入れておられる点に目を留めたいと思います。インドのマハトマ・ガンジーはよく言っていました。「男子を教育するなら、それは単なる個人的教育に終わる。しかし、女性を教育するなら、それは、国全体を教育することになる」と。私はここにおられる学生の皆さんお一人お一人が、人々への奉仕の精神と人類に向かって開かれた、ユニバーサルな愛の精神を育んでくださるようお願い、また、お祈りしています。藤学園では、学生の皆さんが自由な雰囲気の中で、知性を身につけ、責任のある一人の人間として成長していくよう導かれ、また励まされていることを知っています。藤学園が目指す理想は社会でリーダーシップをとれる女性を育成していくこと、開かれた心で敏感に社会の要求をキャッチし、自分が置かれた環境の中に光とぬくもりをもたらすことのできる女性、言い換えれば、「他者のために生きる女性」を生み出していくことです。

藤学園で働いておられる皆様が、これからも末永く調和と連帯のうちに、一層充実した実りある教育に携わっていかれるよう、皆様の益々のご健勝をお祈りしております。ありがとうございます。

2015年5月に札幌の市長に就任した秋元克広市長が、  
学生リポーターと共に様々な情報を配信する動画『教えて！秋元市長』のコーナーでリポーターを務めました。  
それぞれの動画で体験した感想や思いを語ってもらいましょう。



## 「札幌市長が描く未来のさっぽろ」

日本語・日本文学科3年  
N.Fさん

秋元克広札幌市長の動画ビデオ「教えて！秋元市長」に学生リポーターとして第1回目に出演させていただきました。学生が市長にレポートをする動画は前例が無く、初回ということでプレッシャーもありましたが、市長や札幌市役所の皆様のおかげで和やかな雰囲気の中で、とても貴重な経験をさせていただきました。

今回「秋元市長が描く未来のさっぽろ」というテーマで市長に今と未来の札幌についてお話を伺いましたが、市長は「空気が清涼でさわやかで生活しやすいところ」が札幌の魅力であると話され、四季がはっきりしていて、一年を通して様々なイベントがあるので住みやすいだけでなく、観光都市としても魅力的な街だと私も市民の一人としてとても共感できる思いがしました。また、今の札幌の課題について市長は「経済的な力強さが無いこと」、「出生率が低いこと」の二点を挙げられました。そして、これらの札幌の魅力と課題を踏まえて、「秋元市長が描く未来のさっぽろ」は「誰もが安心して暮らして生涯現役として輝き続ける街」、「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」であるとおっしゃっていました。

市で行ったアンケートでは市民の約96%の人が「さっぽろが好き」と答えているそうです。これほど多くの市民の方々が好きだと感じられる札幌は本当に魅力的で素敵な街だと思います。私自身生まれも育ちも札幌で、大好きな街です。しかし市長が指摘されたように札幌には課題もあります。その課題を街一体となって解決することで、市長が描く“未来のさっぽろ”に近づくのでは無いでしょうか。改めて札幌市民として札幌について深く考えるきっかけにもなり、より良い街になるように私もできることから始めたいと思います。



## 「街を安全・快適にする取り組み」

文化総合学科3年  
M.Kさん

私は今回、施行から10周年目を迎えた「ポイ捨て防止条例」を中心に、札幌市の街を安全かつ快適にする取り組みについて秋元市長にお話を伺いました。

2005年8月1日に施行された「ポイ捨て防止条例」は、観光都市さっぽろに相応しい環境と、市民の安全で快適な生活環境を確保するために、たばこの吸い殻や空き缶などのポイ捨ての禁止、喫煙制限区域内での喫煙の禁止、飼い犬の糞の回収などを定めたもので、違反をすると過料が科せられるということは意外と知られていません。条例が作られた当初は話題になりましたが、その時に子どもだった私たちの世代は、特にたばこの吸い殻については今でも条例を知らないまま20代30代となり、その比較的若い人たちの違反が増えてきているのだそうです。

これは同世代として残念であり、ルール、マナーを大切にしている日本人として恥ずかしいことであると思いました。

撮影が行われた初秋の爽やかな風の吹く大通公園では、外国人観光客の姿を多く見かけました。また2016年3月

札幌市公式ホームページ

「教えて! 秋元市長」のコーナーで紹介されています

[http://www.city.sapporo.jp/city/mayor/oshiete\\_shicho/index.html](http://www.city.sapporo.jp/city/mayor/oshiete_shicho/index.html)

教えて! 秋元市長

検索

には北海道新幹線も開業し、道外からも更に多くの方々が訪れてくださることが予想されます。

観光客の方々には、札幌は綺麗な街だという良いイメージを持ってもらい、そしてまたこの街を訪れたいと思っただきたいものです。

そのためには、私たち若い世代も自分たちの住む街にもっと関心を持つことが大切であり、大好きな札幌市を美しい街にしたいという意識を持っていれば、条例を「知っている」「知らない」に関わらず、自然とポイ捨てなどのマナー違反の行為は減っていくのではないのでしょうか。

今回の学生リポーターは、札幌市の政策や秋元市長の考えに触れ共感できる機会であり、生まれ育った愛すべき札幌の街づくりに貢献していきたいと強く思われる時間でした。



で大雨の危険から身を守る方法について市長とお話しさせていただきました。撮影はとても緊張して、最初は視線の送り方すらわからず、また自然な笑顔や受け答えのタイミングをつかむのに苦労しましたが、いつもにこやかな市長と札幌市の職員の方々のアドバイスに支えられNGはほとんどなく収録は進みました。内容的に「防災」ということもあり、防災センター内では緊張している暇もなく、様々な災害バーチャル体験コーナーを自然体で経験することができました。

災害とはいつどんな時にどの場所で起こるのか正確には誰にもわかりません。「万が一のとき」にまず何をすべきか、発生する災害によって対処の仕方が違い、避難する場所やタイミングが変わってくることを初めて知りました。

札幌市の防災センターでは「土砂災害を大画面の3D映像で体験」「立っているのも困難なほどの暴風体験」「消火器を実際に使う練習」「巨大地震体験」「煙避難体験」など、各種災害の模擬体験を通じて防火防災に関する知識や災害時の行動などを学ぶことができます。

今回の体験を通して、私は災害が起こった際に、自分の身は自分で守れるようになりたいと思うようになりました。日常生活の中でも消火器の設置場所を探してみたり、いただいた災害マップで自分の住む地域の避難場所などを確認するなど、災害に関しても以上意識するようになりました。とても貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。



### 「大雨の危険から身を守る方法」

英語文化学科2年  
H.Sさん

「教えて! 秋元市長」の動画メッセージの3回目のインタビューに選んでいただき、私は札幌市民防災センター



# 商店街との連携



藤麻人での調理の様子



## 札幌市北区麻生商店街との連携事業

食物栄養学科4年 K.Yさん(写真左)

食物栄養学科4年 S.Eさん(写真右)

私たちのゼミでは麻生商店街振興組合のご協力のもと、「麻生キッチンりあん」にて子どもたちに食の大切さ・楽しさを伝えるための活動(へるすたでい:水曜)と、地域の方々に気軽にご利用いただけるコミュニティカフェの営業(藤麻人:月・火曜)を行っています。

### へるすたでい

現代の日本では、子どもたちの「孤食」が増加し、朝食欠食や栄養素過不足が問題となっています。そこで、私たちは「孤食」に焦点を当て、子どもの成長を栄養面からサポートすることや多くの食経験をしてもらうこと、コミュニケーションをとりながら楽しく食事をすることを目的として「共食」の場をつくる活動をしています。この活動では、NPO法人「Kacotam」の学習支援を利用する小・中・高生を対象に夕食の提供と食育活動をし、共に食事をしています。食事量の増加、苦手なものにチャレンジしようとする姿勢や、表情が明るくなるなど子どもたちの成長や変化がみられ、やりがいを感じています。

このような活動は全国的に注目を集めており、今年は新聞やテレビなど数々のメディアに取り上げられました。それがきっかけとなり、地域住民の方々から食材など多くのご支援をいただいた一年ともなりました。今後も自分たちの活動を発信するとともに、子どもたちの食生活がさらに充実するよう、家庭との連携を図ってこの活動を充実させていきたいと思っています。(K.Y)



学習支援のようす

### 藤麻人(とまんと)



ランチメニュー

私たちは地域の方々などを対象に野菜を豊富に取り入れたランチを500円で提供しています。2月にお店を先輩方から引き継いだ当初は、何もかもが初めてなことから苦労の連続でした。しかし、活動を進めていくうちに常連のお客が増え、あたたかい言葉をいただくことで仕事にやりがいを感じるようになりました。今年は、自家栽培の野菜を使用した料理の提供や毎月のイベントメニューの企画、SNSやチラシを利用した広報活動、村田ゼミとのコラボ企画など様々なことに取り組みました。みんなで一つのものを作り上げて成功するたびに大きな団結力と達成感を得ることが出来ました。

また8月には東日本大震災の被災地である宮城県岩沼市を訪問し、現地で栽培されている白菜を使用したレシピの提供を行う「出張藤麻人」を通じ、地域住民の方々との交流を図りました。この被災地訪問を通して、あらためて震災の怖さや悲惨さを感じたとともに、人と人のつながりの大切さを実感しました。藤麻人が活動できているのも周りの方々とのつながりや支えがあってこそだと思います。

自分たちが活動できていることに感謝の気持ちを忘れず、藤麻人で学んだことを将来様々な場面で生かしていきたいと思っています。(S.E)

# 私のカレッジライフ

藤の学生は、どのような学生生活を過ごしているの？  
このコーナーでは、学部ごとに1名ずつ学生の1週間のスケジュールをご紹介します。

## 私のスケジュールの特徴

午前中にはあまり授業を入れず、午後中心のスケジュールになっています。放課後はサークルやアルバイトへ行くことが多いです。

## 今後のビジョン

今私は日本史演習に所属し、(日本で)中世にかかれた日記を読んでいます。今はまだすらすらと読めませんが、もっと知識をつけて多くの史料を読んでいきたいと思っています。

文化総合学科 2年  
Y.Mさん



### ある週のスケジュール

	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun
I 講時	この英語の授業では必ず当たるので予習は必須！空き時間も利用して終わらせます。		9:00 女性論B	様々な職業で働いている方々、藤女子O.Oの方々のお話を聞けるようになる授業です！			
II 講時	10:40 英語購読 IIA		10:40 日本史特講 B-b	10:40 異文化コミュニケーション演習	10:40 英語購読 IIB	10:00 アルバイト	
昼休み	お弁当 日本史演習では少人数で発表をしたり様々なことをします。事前にしっかり準備して発表に備えます。		お弁当	お弁当	お弁当		イベント会場へ行ってボディペイントをしたり、商品販売するバイトです。
III 講時	13:00 日本史演習 A-a		13:00 日本文学講義 IIB-b	13:00 造形美術論	13:00 日本史特講 A-b	14:00 終了	
IV 講時	14:40 音楽社会学 II-b	14:40 日本文化論 E-b		14:40 西洋思想史 A-b	14:40 イスラム文化論 b		
V 講時		図書館には映画も多く揃っています。放課後でも自習の息抜き等で本に囲まれていることができます。		サークルは北大の美術部に所属しています。他大学の学生さんも多いので、交流しながら、様々な活動をしています。			
	19:00 サークル	自動車学校	15:00 映画	19:00 サークル	19:00 サークル		買い物



## 私のスケジュールの特徴

社会福祉士の受験資格と、中高家庭科教員免許の取得に向けて毎日忙しいけど、とても充実しています♪

## 今後のビジョン

社会福祉士の資格を持った家庭科教員になるのが目標です。そのため、ゼミも教育系を考えています。

人間生活学科 2年  
K.Aさん



### ある週のスケジュール

	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun
I 講時		9:00 コミュニケーション 英語				9:00~12:00 部活	9:00~12:00 部活
II 講時	10:40 中等家庭科 教育法I	10:40 生活と健康	10:40 フランス語演習	10:40 ソーシャルワーク 実習指導I	10:40 就労支援論/ 更生保護論		高校から続けているチアダンス。めざせ全国
昼休み		フランス語検定試験に向けて勉強中！	図書館		サークルの講演会やボランティア研修などに参加		
III 講時	13:00 日常生活活動/ 加齢と障害	13:00 居住環境 デザイン	三年生からのゼミ選択について、先生方が説明をしてくれました。	13:00 ソーシャルワーク 演習II	13:00 生活と経済	13:00~15:00 北16条キャンパスで講演会	
IV 講時	14:40 権利擁護と 成年後見制度	14:40 調理学実習	14:40 人間生活学 基礎学習	14:40 人間関係と心理			15:00~16:00 フランス語 検定試験
V 講時	16:20 ソーシャルワーク論	16:20 調理学実習		16:20 教育制度論			
	将来、家庭科教員として調理を教えるための大切な科目です。	18:00~ 部活	18:00~ 家庭教師	18:00~ 部活	18:00~ アルバイト	18:00~ アルバイト	18:00~ アルバイト



週1回中学二年生に数学を教えています。



# 藤女子大学の国際交流

## カナダ協定校カルガリー大学への半期留学を開始しました

2015年度後期より、カナダ・アルバータ州の協定校カルガリー大学へ半期留学の派遣を開始し、9名の学生達が9月初旬から12月下旬まで15週間の英語を集中的に学習するプログラムで学びました。

カルガリー大学では基礎から上級まで6レベルのクラス分けが行われており、自分にあったクラスで学ぶことができます。学習量は後半に向けて増えてゆき、学生の皆さんは忙しく毎日を過ごしました。研修期間中は、カルガリー大学紹介のホームステイ先に宿泊しましたが、更にオプションで、ガイド付課外活動(アクティビティ・プログラム)に参加し、世界遺産のカナディアンロッキー山脈への宿泊旅行や、カルガリー周辺の文化的、社会的名所を訪れる学生達もいました。

カルガリー大学の英語研修センターには日本人職員が3名在職し、学生たちの様々な相談や悩みに迅速に対応してまいりますので、安心して勉強や文化学習に取り組むことができます。昨年11月には、そのうちのお一人である高田様が来学され、本学からの派遣学生たちが皆、元気に過ごしている様子をご報告下さいました。また、昼休みに行われた留学説明会でも、来年度以降の派遣に興味を持つ学生達に向け、カルガリー大学での英語学習について直接詳しいお話しをして頂きました。



授業の様子



バンフ  
国立公園



フードコート

留学についてのお問い合わせ

国際交流センター(北16条キャンパス 3F) TEL/FAX ● 011-736-5912(直通) E-mail ● cep@fujijoshi.ac.jp

## 学内ニュース

✚ 故 喜田 勲 学長の急逝に伴い、2015年12月5日をもって  
理事長 永田 淑子が学長に就任致しました。

2015年6月～ 12月に下記の行事、講演会等を実施しました。

### ❖キリスト教文化研究所公開講演会 7月4日(土)

「聖書に学ぶ一旧約聖書の歴史観～特にいわゆる申命記史書の歴史神学をめぐって～」  
講演者：山我 哲雄氏(北星学園大学 教授)

### ❖第2回食物栄養学科同窓の集い 7月11日(土)

### ❖保育学科特別公開講座 7月12日(日)

「子どもを育むムーブメント教育の理論と実際」  
講演者：飯村 敦子氏(鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院 教授)

### ❖第17回家庭科教育研修講座 7月25日(土)

### ❖英語で楽しもう! Let's Enjoy English 8月10日(月)～ 11日(火)

### ❖日本語・日本文学科特別公開講演会 9月17日(木)

「1950年代の文化運動と東アジア」  
講演者：鳥羽 耕史氏(早稲田大学 教授)

### ❖キリスト教文化研究所公開講演会—世界の古典「聖書」— 9月18日(金)

「聖書に学ぶ—創世記に見る人類太古の物語の現代的意義—」  
講演者：月本 昭男氏(上智大学 特任教授、立教大学 名誉教授)

### ❖JICA地域研修プログラム「仏語圏アフリカ乾燥地域村落飲料水管理コース」受入 9月25日(金)～ 11月12日(木)

### ❖学園創立90周年 藤女子大学公開講演会 10月3日(土)

「日本の英語教育と大学入試改革の意味」  
講演者：吉田 研作氏(上智大学言語教育研究センター長)

### ❖文化総合学科公開講演会 10月18日(日)

「繁栄とリスクの狭間で：南インドにおける原子力発電をめぐる社会運動」  
講演者：野手 修氏(本学 教授)

### ❖慰霊祭 10月30日(金) 於マリア院聖堂

### ❖人間生活学部公開講座 10月31日(土)

「困難を抱える子どもたちへの学習・食支援」  
講演者：高橋 勇造氏(NPO法人Kacotam代表)  
シンポジスト：三浦ひとみ氏(いしかり子育てネット会議議長)、  
坂本 伸子氏(石狩市浜益支所保健師)

### ❖公開講座「土曜講座2015」まちづくりと観光と図書館

「まちを育てる図書館とまち文化」11月7日(土)  
講演者：塚田 敏信氏(まち文化研修所主宰)

「図書館と観光のかかわり」11月14日(土)

講演者：松本 秀人氏(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院研究員)

「図書館の役割を考える—地域の文化の発信と継承のために—」11月28日(土)  
講演者：下田 尊久氏(本学 准教授)



謹んでお悔やみを  
申し上げます

元藤女子大学 文学部  
日本語・日本文学科 教授  
丸山 隆司 様

2015年6月26日ご逝去。  
京都市立紫野高等学校卒(作家綿矢りさの大先輩にあたる)後、東京都立大学人文学部B類を経て、同大学院人文科学国文専攻博士課程を単位取得退学(文学修士)。同大学の非常勤講師を務めたのち、1985年4月から本学短期大学部専任講師、翌年本学文学部国文科助教となる。国文科学科主任、図書館長を歴任し、2004年から08年3月

まで文学部学部長。2014年3月早期定年退職後、本学名誉教授。主に『万葉集』をフィールドにされながら、近代日本文学にも通暁。本学着任後からアイヌ文化を研究するなど幅広い学識をお持ちだった。著書に『〈アイヌ〉学の誕生』、『古代日本文学と文字』、『困惑する書記(エクリチュール)』、『万葉代匠記』の発明』などがある。



## 留学先から



### カナダ留学体験記

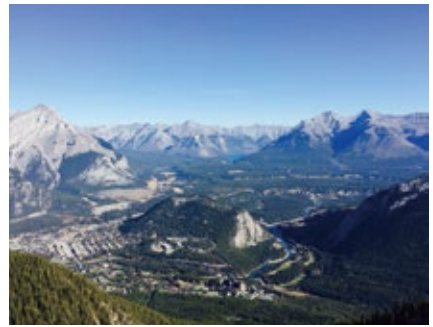
英語文化学科2年 S.Kさん

今私はカルガリー大学の半期留学に参加し、ESL(英語を母国語としない人達)のクラスやホームステイ先での出会いを通して、さまざまな文化に触れ、学業に励んでいます。

秋 semester では、文法、リーディング&ライティング、スピーキング&リスニングと三つのクラスがあり、私はレベル1~6のうちレベル5のクラスに所属しています。授業の内容はハイレベルかつ実践的で、常に自分の考えを周り共有することが求められます。semesterの始めは、クラスメイトの英語のレベルの高さや今まで経験したことのない授業形式、課題の多さなどに戸惑いましたが、2ヵ月以上が経ったいま、辛くても続けることで、力が伸びてきているのを実感しています。また、私にとって、年齢も国籍も異なるクラスメイトと共に勉強す



るのは初めてのことで、大変なこともあります。彼らからはたくさんの刺激を受けながら学んでいます。



また、アクティビティー・プログラムというカナダで人気の旅行地や文化的・社会的な名所を訪れるプログラムに参加し、カナダの文化や歴史に関する美術館を訪問したり、アイスホッケーの試合観戦をしたりするなど、楽しみながら多方面からカナダの文化に触れています。

ホームステイ先では、素晴らしいカナダ人の家族に恵まれ、家族の一員としてカナダ人のライフスタイルを間近で体験しています。休みの日は家族で出掛けたり、会話を楽しんだり、彼らの信仰にまつわる話を聞いたり、今、ここでしかできない貴重な体験をさせて頂いています。

残り少ない時間を大切に、カナダでの生活、学業ともに悔いなくやり遂げたいと思います。



### あつという間の日々

文化総合学科2年 I.Yさん

私は英語を専門に勉強している英語文化学科の学生ではないので、英語できちんとコミュニケーションがとれるのか、またカナダ派遣第一期生ということで未知の部分が多く、来る前は期待と不安が入り混じっていました。しかし、現地に来てみると、わからないことや戸惑うことはたくさんあるものの、楽しく毎日を過ごすことができている。

授業は文法、リーディング&ライティング、スピーキング&リスニングの3つの科目を毎日受けています。日本人学生より外国人学生の方が多く発言しており、私も毎回の授業で発言するように心がけています。先生方は学生が理解するまで対応してくれますし、私のホストファミリーは、私の発音や文法の間違いを正してくれます。ファミリーはとても素敵なご家族で、休日には子供達と広い



庭で遊んだり、一緒に買い物に行ったり、少し遠出をして観光に連れていかれたり、様々な経験をさせてもらっています。



また、外国人の友達もたくさんでき、週末には一緒に出掛けたりもします。自分の言いたい事がうまく伝えられないという苦労はありますが、なんとかコミュニケーションはとれており、留学を通じてできた友達は私の一生の宝物になることと思います。最初は言葉が聞き取れなくて、苦労したこともたくさんありました。しかし、今はリスニングでの成長を感じています。

今後の課題はスピーキングなので、聞くだけではなく、自分から積極的に話しかけていこうと思っています。この素晴らしい機会を与えてくれた両親のためにも、時間を無駄にせず、多くのことを吸収して日本に帰りたいと思います。

# 大学へのご支援ありがとうございます

藤女子大学の寄付募集活動は、みなさまの温かいご支援により、2012年度からの累計が1億800万円に達しました。寄付募集につきまして深いご理解とご協力を心よりお礼申し上げ、ここに感謝の意を表しご芳名を掲載させていただきます。2015年度のご寄付につきましては、次号の広報「藤」にて、用途等をご報告いたします。

## 寄付者ご芳名 (第7回) 期間 2015年4月1日～ 2015年9月30日 (敬称略・お申込順)

〈保護者〉	〈卒業生〉	〈旧教職員・旧役員〉	〈教職員・役員〉	〈その他、法人等〉	
佐藤 守 三谷 耕 河合 幹夫 浅見 優子 矢野 誠 永田 淑子 藤の美会	池田 隆 田中 克志 森 義則 倉本 茂子 長谷部 清 東川 尅美 障がいと共に歩む 札幌大会実行委員会	西川 重穂 石川 利子 高木 孝弘 木村 玲子 田中 彌八 鉢呂 光恵 医療法人社団 阿部小児科医院	篠原 未治 西村 和信 佐藤 栄一 飯島 昌子 高橋セツ子 計 3名 計 3件	渡邊 幹夫 西 勝美 大塚 正和 高杉 英子 岩本 郁子 計 81件	
江田 勝 高村 忠峰 匿名 23名 阿部和加子 三浦 良一 2,813,000円	西 博史 中野 人文 匿名 54名 矢田貝節子 知地 英征	日向 正典 佐藤 晶 計 9名 匿名 1名 匿名 4名	安念みどり 山本 徹 匿名 9名 匿名 12名	板東由多加 岩本 隆行 匿名 1名 匿名 4名	石山 茂 池田 和広 (株)アイ・ディー・エフ 計 9名 匿名 12名
田川由美子 小林 法夫 (有)三陽商産	酒井 俊一 磯部 修一				

2012年度実績：377件 12,081,866円  
 2013年度実績：227件 17,413,757円  
 2014年度実績：191件 76,223,954円

**2012年4月～2015年9月末までの累計  
 876件 108,532,577円**

## ご寄付のお願い

藤女子大学は、財政基盤をより強化して教育研究環境の整備と学生支援体制のさらなる充実を図り、創立の精神に基づいて女性の育成に努めてまいります。今後とも、ご支援をいただければ幸いです。

### 【募資金額】

個人……………1口1万円 (なるべく2口以上のご協力をお願いしておりますが、金額にかかわらず有り難くお受けいたします)  
 法人・団体……金額は特に定めておりませんが、格別のご協力をお願いいたします。

### 【お申込み・払込み方法】

寄付申込書をご送付の後、お近くの郵便局・銀行から下記口座宛にお振り込みください。なお、本学専用の払込用紙で郵便局から払込手続きをされますと、手数料は無料になります。寄付申込書・払込用紙等をご入り用の際は、本学寄付金募集窓口にご連絡ください。

- 郵便局 振替口座 02780-7-50398 藤女子大学  
 銀行 北洋銀行 北七条支店 (普) 3989004 藤女子大学 募金口  
 北海道銀行 札幌駅北口支店 (普) 1185721 藤女子大学 募金口  
 三菱東京UFJ銀行 札幌支店 (普) 4021677 学) 藤学園 藤女子大学

### 【記念品について】

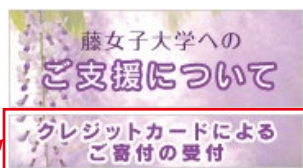
1回につき2口以上ご寄付をいただいた方には、「藤」の名を入れた記念品を贈呈いたします。

### 【税制上の優遇措置】

藤女子大学へのご寄付につきまして、「所得控除」制度か、「税額控除」制度のどちらかの適用を受けることができます。税額控除制度では、所得税率に関係なく寄付金の約40%が所得税額から直接控除されます。(ただし所得税額の25%が限度)確定申告の際に、寄付者ご自身においてどちらか一方の制度をご選択ください。

### 【クレジットカードによるご寄付】

インターネットからのクレジットカード決済もご利用いただけます。  
 本学ホームページのトップ画面右側「クレジットカードによるご寄付の受付」バナーよりお手続きください。



会計課寄付金募集窓口  
 TEL : 011-736-5044 FAX : 011-736-5230  
 E-mail : kaikei@fujijoshi.ac.jp URL : http://www.fujijoshi.ac.jp

# 素顔の先生 第3回

文学部 英語文化学科 准教授

山木戸 浩子先生



▲幼少期2歳

▲留学当初  
ニューヨーク  
にて

ベビーシッターの  
子どもたちと



「素顔の先生」第3回目は、文学部・英語文化学科で専任教員をなさっている、山木戸浩子先生の新たな一面を発見するためにお伺いしました。先生の学生時代や私生活についてなど、普段は聞けない貴重なお話をたくさんお聞かせいただき、大変有意義な時間となりました。

## Q1. 日本の大学を卒業後、 どうしてアメリカへ留学したのですか？

日本の大学では言語学を専攻していなかったのですが、言語教育・習得に関する授業で、アメリカで生まれた様々な外国語教育のメソッドや言語習得の理論について学ぶ機会がありました。その内容に強く関心を持ち、今までにないくらい夢中で授業を受けました。そして言語学をもっと学びたいと思い、卒業後に留学することを決めました。きっかけとなった授業の先生がアメリカ留学を経験していたりしたことや、私の姉も当時アメリカに留学中だったことなどの理由から、私もアメリカを選びました。

## Q2. アメリカではどのような学生生活を送っていましたか？

授業についていくのがとにかく大変で、友達と深夜まで図書館に残って勉強する毎日でしたが、とても充実していました。私はアメリカの「頑張ればその分きちんと評価してくれる」ところが大好きです。留学当初は、履修登録1つするのもサンドイッチを1つ買うのも苦勞しましたが、それでもくじげずになんとか頑張れたのだと思います。

また、大学院生のときは、アルバイトで言語学部の先生のお子さんのベビーシッターをしていました。それはとても貴重な経験で、大人になった当時の子どもたちとは今でも交流があります。

## Q3. 藤への着任を決めた理由と、 藤の印象について教えてください。 また、アメリカの学生と日本の学生で どのような違いを感じましたか？

まず、北海道という土地に魅力を感じていました。先に住んでいた妹から、住みやすく良い街だと聞いていましたし、私自身も何度か訪れるうちに大好きになりました。当時はアメリカの大学で教えていたのですが、そんな中、北海道の名門女子大と聞いていた藤女子大学で私の専門

である言語学の枠で教員の公募をしていることを知り、すぐに応募を決めました。着任後は、素敵な学生や先生・職員の方に囲まれ、本当に幸せです。素晴らしい環境があるからこそ、私自身も成長できるのだと日々実感しています。

アメリカの学生は、授業に積極的に参加します。徹底的に予習・復習を行い、授業中の発言はとても多かったです。一方、日本の学生は…と言っても、藤の学生しか知らないのですが…授業に対して熱心で真面目に取り組む学生が多いです。そして、授業中みんなよく笑います！何か質問があると、授業が終わった後やオフィスアワーに聞きに来て、解決しようとします。1年生のときに授業中あてると恥ずかしがっていた学生が、上の学年になるにつれて積極的に参加するようになり、その成長していく姿は本当に素晴らしいです。

## Q4. 休みの日はどのように過ごしていますか？

恥ずかしいですが、授業のない日も仕事をしていることが多いです…。ただ、専門(言語学)自体が私の好きなことなので、趣味としてやっていることも仕事につながる人が多いです。例えば、海外ドラマのDVDを観ることが好きなのですが、それらを研究や授業の題材として使うこともあります。2年前から関わっているプロジェクトでは、フィクションのセリフ分析をしているので、どんなふう言葉が使われているのか気になりながら観ています。そのほかの時間は、ジムで体を動かしたり、ファッション関連のウェブサイトを見たりしています。

## Q5. 先生の今後のビジョンは何ですか？

以前雑誌である女性が「前もってちゃんと用意していないと運はやってこない」と言っていたのですが、本当にその通りだと思います。無理をせず自分のペースでコツコツやっていって、何年か経ったときに、今と同じように元気で、何か夢中になれる研究のプロジェクトに携わっていて、藤の学生と楽しく一緒に勉強ができていたらいいなあと思います。学生の皆さんも、何か興味のあることに夢中になって、素晴らしい学生生活を送ってほしいです。



文学部  
英語文化学科 4年  
O.Hさん

先生のプライベートに踏み込む、貴重な体験でした。素敵なお話に、先生はじめ、撮影や校正をして下さった職員の方、小井沼さんの溢れる笑顔が加わり、恵まれた環境が整う「藤」を実感する心地の良い時間でした。



文学部  
英語文化学科 4年  
O.Sさん

この度は、先生からたくさんの興味深いお話を聞くことができ、とても楽しく充実した時間となりました。後悔のない日々を送るためにも、毎日を大切に過ごし、いつか先生のような素敵な女性になりたいと感じました。

今回は、藤学園の設立母体である「殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会」の霊的父である聖フランシスコの精神についてご紹介します。

フランシスコは12世紀の終わり頃、イタリア中部のアシジという町に裕福な織物商人の息子として生まれました。彼が生まれた時、ジョヴァンニ(ヨハネ)という名で洗礼を授けられました。その時商用でフランスに出かけていて不在だった父親が帰ってくると、フランス好きの彼は息子をフランチェスコと呼びました。それ以来、この息子はフランチェスコと呼ばれ、騎士になることを憧れる青年になりました。

当時は町と町との戦いが絶えず繰り返されており、フランチェスコは何度も立派な装いで戦いに出かけました。隣の大きな町ペルーシアとの戦いに負けて捕虜になったフランチェスコは、捕虜として囚われていた間に病気になる。家に帰ってからも療養生活をしていました。その間に、単なる世俗の騎士になることではなく、真の王であるキリストに仕える騎士になることを望むようになりました。

彼は自分のなすべきことがわからず、壊れかけた教会で祈っていた時、そこに下がっていた十字架のイエスから「行って、私の家を建て直ささい」という

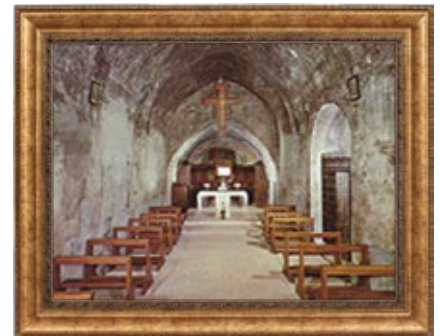
声を聴きました。彼はその言葉を文字通りに解釈して、壊れかけた教会の修復を始めます。父親の店の商品までお金にして石を買い、教会を幾つも修復します。怒った父親から勘当され、フランチェスコは「天の父である神様だけを父と呼ぶ」と宣言しました。

彼はすべてを捨てて施しによる貧しい生活をし、誰からも顧みられなかったハンセン病の患者たちのお世話をし、キリストの愛を説きながら人々に回心を呼びかけました。かつては彼の遊び仲間であった青年たちが、彼の真剣な生き方に共鳴して仲間に加わり、兄弟的な生活を始めました。父である神の愛深い計らいに対する単純で絶対的な信頼が、彼の特徴です。

フランシスコは自然の中に神様の働きを見て賛美し、貧しさと謙遜をこよなく愛して人々の間に和を作り出しました。このようにして、彼は当時の教会を霊的に建て直したのです。



フランチェスコに語りかけた十字架



フランチェスコが修復したサン・ダムリアノ教会



### ＋ 心よりご冥福をお祈りいたします

2011年から本学の学長を務めてこられた フランシスコ・ザビエル 喜田 勲 神父様が2015年11月22日にご帰天されました。葬儀ミサ・告別式は11月27日(金)に聖イグナチオ教会主聖堂(東京)で、大学追悼ミサは12月19日(土)に札幌マリア院聖堂で執り行なわれました。

1941年12月15日西宮市に生まれる。1962年3月31日イエズス会入会(広島)。1973年3月24日司祭叙階(東京)。1980年12月8日最終誓願(東京)。1979年～2011年上智大学文学部で教える。1982年～2005年上智大学学生寮の舎監。2002年2月～7月上智社会福祉専門学校校長補佐。2002年～2011年上智社会福祉専門学校校長。2011年～藤女子大学学長。2015年11月22日帰天(大阪)